

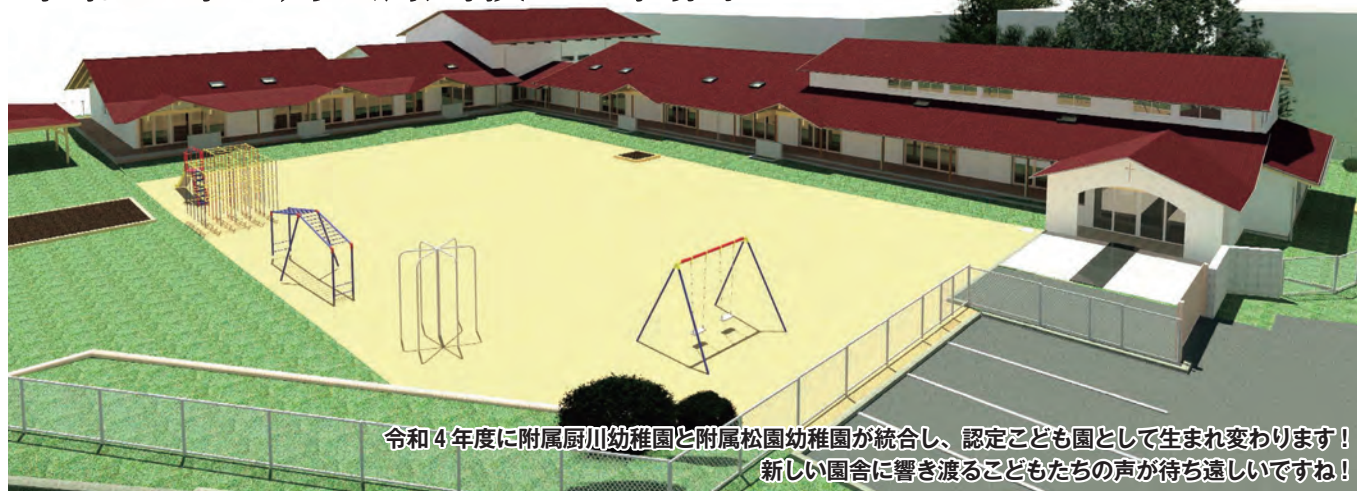


東日本大震災により被害を受けられた皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

CONTENTS

■ 同窓会長あいさつ	1	■ 恩師からのメッセージ	3
■ 大学の近況	2	■ 卒業生は今	4
■ コロナ禍の在学生の活動	3	■ 事務局だより／編集後記	4

幼保連携型認定こども園 盛岡大学附属幼稚園 令和4年4月、厨川校地に開園！



令和4年度に附属厨川幼稚園と附属松園幼稚園が統合し、認定こども園として生まれ変わります！
新しい園舎に響き渡るこどもたちの声が待ち遠しいですね！



令和4年1月7日 撮影



令和4年2月24日 撮影

盛岡大学 開学40周年を迎えて



盛岡大学聖陵同窓会
会長 菅原 元

令和3年度、盛岡大学は開学40周年、学校法人創立70周年のダブルメモリアルイヤーとなりました。それに併せて3つの記念行事等が行われました。一つ目は記念式典で、創立記念日である6月15日に細川泰子記念礼拝堂で記念礼拝と同時開催されました。二つ目は、深沢紅子野の花美術館で「盛岡大学展」が開催されました。三つ目として、幼保連携型認定こども園盛岡大学附属幼稚園が新設されることとなり、令和4年4月に開園予定となっております。

さて卒業生の皆様へ報告になりますが、学校法人における学生及び職員の心身の健康教育並びに健康の保持及び増進を図るための構造変革の一環等の理由により、学校法人盛岡大学ウエルネスセンターが設置されました。それに伴い教員養成サポートセンターの執務室が移動することとなり、D校舎二階に開設していただきました同窓会室を一時的に貸し出すこととなりました。期間は令和5年3月までとなっておりますのでご了承のほどよろしくお願い致します。

最後になりますが、引き続きのコロナ禍において皆様大変な思いをされていることと存じますが、皆様の益々のご活躍をお祈りするとともに、今後とも本学の発展と聖陵同窓会への御支援をよろしくお願い致します。

・同窓会長 あいさつ

大学の近況



盛岡大学・盛岡大学短期大学部の卒業式・入学式が大学・短大合同でアクティブホール（D201）にて行われました。新型コロナウイルス感染症対策のため学科ごとに時間を調整して行いました。



新型コロナウイルス感染症への迅速な対応と学生・教職員の心身の健康の保持・増進のためウエルネスセンターが設置され、新型コロナウイルスワクチンの接種が行われました。



学校法人盛岡大学 70 周年・盛岡大学開学 40 周年展覧会が深沢紅子野の花美術館で開催されました。同窓生の皆様のご多大なるご寄付にお礼申し上げます。



JA 新岩手・JA 全農いわてさまからお米と野菜を寄贈いただき、学食でエール丼と夏野菜カレー（各 200 円）を提供しました。



聖陵同窓会の寄付で図書館に新しくブックトラックとロッカーが設置されました。写真はブックトラックです。学生たちに有効に使われています。



コロナ禍の在学生の活動



※撮影時のみマスクを外しています。

私たちボランティア委員会 結-You-は、復興支援活動、教育支援活動、地域貢献活動などを行っています。

例年に比べ活動は激減したものの、今年度は、親子向け行事の企画運営、チャリティーサンタ活動、デイサービス訪問、開運橋の花壇清掃等の活動を行いました。地域の方々と交流できることに喜びを感じながら、どの活動も楽しく行うことができました。

今後も地域の方々ととのつながりを密に、様々な活動を行いたいと思います。

ボランティア委員会 結-You- 令和3年度代表
文学部児童教育学科3年 渡部 まあり



私たち学生広報スタッフは主に高校生やその保護者の方々に盛岡大学の魅力を伝える活動をしています。昨年の夏にはコロナウイルスの感染防止対策を講じ、久しぶりにオープンキャンパスを開催することが出来ました。通常とは違う形での開催となりましたが、学生目線での盛岡大学の魅力を伝えられた良い機会になりました。

学生広報スタッフリーダー 文学部日本文学科4年 熊谷 友里



学友会では、クリスマス企画の一環として、コロナ禍の中で最前線に立ってくださっている医療従事者の方々への感謝の気持ちを込めて、イルミネーションを施しました。多くの方々に喜んでいただきました。

学友会会長 文学部社会文化学科3年 高崎 皓太

恩師からのメッセージ



文学部児童教育学科
准教授 山口 亮介

盛岡大学に赴任した4年前の4月、大学構内のいこいの広場では新入生に向けてのサークル紹介などが行われ、さんさ踊りやダンスサークルの音楽が聴こえ、活気ある学生の歓声が研究室まで聞こえていました。しかし、2年前より感染症対策に気を付けながらの授業やサークル活動が日常となりました。現在では、当たり前になっていた事のありがたさを感じています。

卒業生の皆さんと同じ時間を過ごすことができた4年間は、小学校教員としての経験を基に、学生の皆さん一人ひとりの指導力や実践力をつけることができたと力を尽くしてきました。音楽の授業では、音楽の楽しさや指導の面白さを感じてくれていたことがとてもありがたかったです。

教員の仕事は児童や生徒に種を渡す仕事だと思います。その種は受け取った児童や生徒が大事に育ててくれると、時間をかけて各々が素晴らしい花を咲かせます。学生であった皆さんにも多くの種を渡せたのではないかと思います。ぜひ、今度は皆さんがこれから出会う子供たちにその種を渡してくれることを願います。今までありがとうございました。



文学部児童教育学科
教授 石濱 博之

ご縁があり2018年4月に盛岡大学に着任して、2022年3月に退職を迎えました。丁度4年間の大学生活と同様に、4年間お世話になりました。感謝。

私が生まれ育った故郷は、名古屋市に隣接する愛知県東海市です。現在、東海市は製鉄の町（釜石市と姉妹都市）ですが、私が育った頃は漁業と農業の町でした。そして、江戸時代に名君と言われた上杉鷹山（米沢藩）を教えた細井平洲の出身の町でもあります。

細井平洲の教えの一つに、「学（がく）、思（し）、行（こう）、相須（あいす）」と説かれています。学び、考え、実行することが三つそろって、初めて学んだことになる解釈されています。「学問すること、知識を得るためだけのものではなく、学んだことを生活に生かして、よりよくしていくことが目的なのです」と主張しています。盛岡大学の卒業生（同窓生）は、様々な専門領域で深みのある学びをした後に、きっと実生活に生かし社会に貢献されることでしょう。

最後に、満足したこと、うれしいこと、楽しいこと、辛いこと、悲しいこと、納得できないこと、人生にはいろいろあります。やれる範囲で一生懸命やりましょう。そうすれば、きっとよいことがあると確信しています。

盛岡大学、さようなら。

卒業生は今

「警察官になる」と決心し、たった一人で東京の地を踏んで14年が経とうとしています。慣れない都会での生活に四苦八苦していた私も、今では多くの部下に囲まれ、充実した日々を送っています。

近年の日本の犯罪情勢は、インターネット環境の発展に伴うサイバー犯罪や、コロナ禍に便乗した特殊詐欺等が増加傾向にあり、犯罪がより多様化・巧妙化しています。そんな中、我々警察官が確固たる「正義」を貫く為には、学び成長し、適応する力を得なければなりません。

私の学ぶ姿勢の基礎となったのは、ラグビー

部での活動です。初めて団体競技を経験した私にとって、仲間と共に勝利を目指した日々は、かけがえのない学びとなり、今では部下と共に組織をより良く管理運営する為のチームマネジメント能力として活かされています。

どんなに歳を重ねても、どんなに偉くなくても、学び成長することを放棄した者に未来は開かれません。皆様は、4年間という大学生活で何を学び、どう活かすのでしょうか。今はまだ漠然としていても、たとえどんなに小さな学びでも、その積み重ねはいつかきっと自分の力となるはずです。



文学部児童教育学科
平成19年度卒業
警視庁上野警察署
警部補
齋藤 晃さん

令和2年度 聖陵同窓会決算書

(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

収入の部

(単位:円)

項目	予算額	決算額
終身会費	2,700,000	2,750,000
入会金	1,350,000	1,375,000
雑収入	20,000	3,994
特定預金取崩収入	0	0
計	4,070,000	4,128,994
繰越金	2,322,624	2,322,624
合計	6,392,624	6,451,618

支出の部

(単位:円)

項目	予算額	決算額
事業費	2,910,000	1,361,540
事務費	10,000	0
通信費	50,000	6,902
会議費	200,000	1,097
会費	100,000	22,000
旅費交通費	100,000	5,000
財政基金繰入支出	500,000	500,000
計	3,870,000	1,896,539
繰越金	2,522,624	4,555,079
合計	6,392,624	6,451,618

事務局だより

同窓会員やその保護者様より、大学や大学同窓会を名乗った名簿詐欺の情報が寄せられております。同窓会ではこの同窓会報に同封している葉書以外の情報収集を行っておりません。不審な電話にお気をつけください。

この会報でも随所でふれられておりますが、今年度は学校法人盛岡大学の70周年の年であり、1981年に開学した盛岡大学の開学40周年の年でもありました。本来であるならば同窓会でもホームカミングデーや総会などを開催し、賑々しく祝いたいところでしたが、今年度も新型コロナウイルス感染症拡大予防の観点から、10月に開催予定だった第40回の聖陵祭は中止となり、開催されれば第9回となる予定でしたホームカミングデーも中止とさせていただきます。学園祭もホームカミングデーも3年連続の中止となってしまいましたので、来年こそ何か出来ないうかが同窓会としても考えていきたいものです。

聖陵同窓会の会員は2022年3月の卒業生をもって14,000名弱となりますが、転居等により会報をお届けできていない会員も少なくありません。同窓生同士でお話しする機会などありましたら同窓会報のことを話の端にのせていただき、「届いていない」という方がいらっしゃいましたら、電話、FAX、seiryoun@moika-u.ac.jp、宛メール等で住所変更登録をお勧めいただけると幸いです。

訃報

板井 一好先生 (元盛岡大学栄養科学部栄養科学科 教授)

令和3年7月30日、70歳で逝去されました。平成26年度から令和元年度までの6年間、栄養科学科の教授を務められました。10数年間、岩手県北地域を対象としたコホート研究に関わり、健康をキーワードに教育と研究にご尽力されました。在職期間中は「地域環境論」「公衆衛生学」等の科目の他、管理栄養士国家試験対策委員会「ご担当され、国家試験合格を目指す学生を大変熱心にサポートしてくださいました。板井先生の温かいお人柄に魅かれ、研究室には多くの学生が相談に訪れていました。謹んでご冥福をお祈りすると共に、皆様にお知らせいたします。

湯沢 康晴先生 (元盛岡大学文学部児童教育学科 教授)

令和3年8月31日、65歳で逝去されました。盛岡大学には平成2年度から令和2年度までの31年間お勤めになり、平成21年度から平成24年度には児童教育学科長を務められる等、長きに渡り本学教育運営に多大なるご尽力をいただきました。

在職期間中は「教育哲学」「西洋教育史」「道徳教育の指導法」等、数多くの授業をご担当されました。学生への丁寧な指導をはじめ、誰をも優しく包み込むようなそのお人柄は、多くの学生、教職員に慕われていました。

謹んでご冥福をお祈りすると共に、皆様にお知らせいたします。



周年記念式典会場の盛岡大学細川泰子記念礼拝堂で挨拶する同窓会長

編集後記

編集委員

古里愛子 (平成24年度卒)/畑村とも子 (昭和60年度卒)/佐藤大裕 (平成12年度卒)/上條尚樹 (平成15年度卒)/長谷川健之 (平成18年度卒)/川田彩乃 (平成20年度卒)/佐々木啓 (平成23年度卒)/平住那 (平成24年度卒)/松原千夏 (平成25年度卒)/杉澤佑 (平成26年度卒)/今野結 (平成28年度卒)

2年続けてコロナ禍の話題となりましたが、ウエルネスセンターによるワクチン接種や感染対策をした上での学生たちの活動など、昨年度より前進している様子をお伝え出来たかと思えます。次号ではアフターコロナの記事を掲載出来ることを願っております。最後になりましたが、同窓生の皆さまには周年事業への多大なご寄付を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。どうぞ引き続きご支援とご協力を賜りますよう心からお願い申し上げます。